

「雑巾がけ」には、教育や運動の効果もあるようだ。加えて、精神的な意味を感じ取る人も、少なくないだろう。日本で特徴的なこと言っていないかも知れない▼福井のご当地作品でもある映画「ちはやふる―結び―」にも、印象的な雑巾がけの場面がある。未

見の人にも大丈夫と思える範囲で触れたい▼高校生の太一くんは主人公千早ちゃんの幼なじみ。競技かるたから少し離れていた太一くんが再度向き合おうとしたとき、何を始めたか。練習場所の畳を一人で毎日拭くことだった▼つい思い出したのが、剣道の元日本代表・栄花直輝さん(えいか なおき)に密着したNHKのドキュメント番組。栄花さんはある転機を迎えた

越山若水

2018.4.22

とき、原点の雑巾がけからやり直す。世界トップ級の選手が毎朝たった一人、広い道場を磨く。その栄花さんの姿が、太一くん役の野村周平さんに重なって見えた▼雑巾がけの比喩に、「下積みのつらい仕事」との意味を書く辞書もある。でもつらいだけではないように思う。2人が磨き上げていた対象は、自分自身だ▼政治の世界から、雑巾がけの言葉を聞くことが減っている。多少自立したのが、2年半前の内閣改造で小泉進次郎氏が入閣否定に使った時ぐらい▼下積みをせよとはいわないが、政治家が自分を磨かなくなったら、どうなるか。立ち居振る舞いが自らを追い詰めていると思えない人がいる。